

実践報告

東京純心大学図書館における利用ガイダンスの実践報告

— 図書館員の指導スキル向上の視点から —

Report on the practice of guidance for Tokyo Junshin University Library

— For the improvement of librarians instructional skills —

田中久子¹・山本和雄²・小泉 澄³・樋口和彦⁴

キーワード：大学図書館、利用教育、利用指導、ガイダンス、スキル

はじめに

東京純心大学図書館の図書館利用ガイダンスは、図書館員が独自にアレンジする内容から科目担当の教員との協働スタイルに変化してきた。そして、令和5年度前期をもって、現代文化学部における図書館利用に関する図書館員による教科科目内での指導が最終回を迎えた。

そこで、図書・研究支援課では、現代文化学部における図書館利用ガイダンスの変遷を辿るとともに、最終的に行き着いた指導内容とその成果を図書館員の視点からまとめることとした。この報告は一つの結実であると同時に、そこから見出された課題を解決していく図書館員の指導スキル向上のためのマイルストーンと位置付け、今後の看護学部での図書館利用ガイダンスに活かしたい。

この報告は、次のような構成でまとめる。

第一章：大学進学までの図書館体験と大学で求められる利用スキル

第二章：本学における図書館利用ガイダンスの歴史

第三章：現代文化セミナーにおける図書館利用ガイダンスの実践報告

第四章：図書館利用ガイダンスの課題

第五章：看護学部における図書館利用ガイダンスの展望

第一章 大学進学までの図書館体験と大学で求められる利用スキル

1. 図書館利用ガイダンスとは

本学の図書館利用ガイダンスについて具体的な実践報告に入る前に、ここでは、図書館利用ガイダンスについて整理しておきたい。そこで、まず引用したいのが、次にあげる図書館における基本用語解説の「利用教育」の項目である。

図書館の利用者に対して、図書館あるいは図書館サービスを有効に使いこなせるよう

1 図書・研究支援課係長、図書館司書（ガイダンス担当歴10年）

2 図書・研究支援課職員、図書館司書（ガイダンス担当歴25年）

3 図書・研究支援課非常勤職員、図書館司書（ガイダンス担当歴7年）

4 図書・研究支援課長

に実施される教育的活動のこと。図書館利用のオリエンテーション、文献探索のためのOPAC検索指導、データベースの検索方法なども指導する。大学図書館ではレポートや卒論の作成に必要な情報活用教育、学校図書館では学び方の指導も行われ、図書館利用そのものから拡張して、情報リテラシー指導を図書館員が実施することも多い。利用者教育、利用指導、利用案内、ガイドダンスなどの用語も使われる¹⁾。

本学における図書館利用ガイドランスは、この利用教育にあたるものと言える。本稿では、まずこの用語解説を図書館利用ガイドランスの定義としたい。

2. 大学で求められる図書館利用スキル

中等教育までの図書館利用教育の取り組み方は、図書館が置かれる学校の実情によってかなりの差があるにも関わらず、大学図書館では、その利用者を自立した情報の使い手として、大学教育に臨むに相応しいレベルに1日も早く到達し、自己の研究課題に挑めるだけの能力の醸成が求められている。『図書館利用教育ガイドライン合冊版』の序文に次のように述べられていることからこのことがわかる。

現在、わが国において情報化社会あるいは生涯学習社会ということが提唱され、人々の間に情報活用能力の重要性が認識されているかに見えます。しかし実情はそれが図書館利用能力と結びついているとは言えません。多くの人々の図書館利用は必ずしも成熟しているとは言えず、日常生活を始め、学習、研究、調査等の活動に少なからず支障を来しております。これは過去において、初等教育、中等教育、高等教育また社会教育にわたって、図書館利用教育への取り組みがほとんど組織的になされていなかった結果と考えられます。人々は基本的

人権としての知る権利を十分に保証されていないと言えましょう。図書館および教育関係者は、利用教育・利用支援を実施することにより、人々の情報面での自立を支援し、知る権利を保証する義務があると考えます²⁾。

それに続く『『大学図書館版』発表にあたって』³⁾では上記の現状に対する大学の取り組みについて一定レベルの評価をしつつも、知る権利を十分に活かす人材育成の必要性を説いており、大学図書館が担う責務の大きさがわかる。このガイドラインでは、大学における図書館利用教育の目的や目標を、領域1:印象づけ、領域2:サービス案内、領域3:情報探索法指導、領域4:情報整理法指導、領域5:情報表現法指導の5領域で整理している⁴⁾。そこで、本稿では、先に定めた定義とガイドラインにある5領域に照らし、実践内容を見ていきたい。

3. 大学進学までの図書館体験

大学入学までに経験した学校図書館の経験は様々である。例えば、同じ敷地内にある東京純心女子中学校では、学校図書館をハブと位置づけ、司書と教科科目担当教員、及び教科科目担当教員同士が協働し、生徒達の調べ学習が体系的に実践されているため、図書館の使い方を身につけている生徒がほとんどである。しかし、図書館利用ガイドランスの冒頭で、学生達にこれまでの図書館体験を確認すると、数名は自信をもって「たくさん利用してきた」という反応を示すが、多くが「行ったことはあるけれど、勉強場所として自習室を使っただけ」、「こどもの頃は良く絵本を借りていた」という選択肢に大きく頷く。

学校図書館法第5条第1項、附則、附則第2項及び第6条第1項によると、学校図書館における専門的職務を掌るのは「司書教諭」であり、「学校司書」の配置は努力義務とされている⁵⁾。

「司書教諭」の配置は、12学級以上の学校に

において必須とされ、11学級以下の学校においては当分の間配置を猶予⁶⁾となっている。法整備はあるものの、「現状では司書教諭は、授業・クラス担任などの職務が軽減あるいは免除されていないため、名ばかりのものになっている。司書教諭はそもそも、教科を教えたいという動機で仕事に就いた先生が圧倒的に多い。」⁷⁾と記されていることが、実情であり、高等学校までの学校における取り組みの違いも学生達の図書館体験に関わっている可能性がある。

第二章 本学における図書館利用ガイダンスの歴史

現代文化学部における図書館利用ガイダンスの歴史は表1のとおりである。大きな転換点は表1中ゴシックで強調した3点で、具体的には次のとおりである。

2003(平成15)年度にはシラバスに「図書館利用ガイダンス」が登場し、開学以来オリエンテーション時の施設見学程度であったものが、1年生を対象とした授業に組み込まれた。1年生向けには、館内ツアーや基本的なルール案内のほか、文献検索のためのOPAC検索指導が行われ、自分で図書を探することができる程度のスキルを身に付けさせるものであった。翌年

には、3・4年生向けにも対象が広がり、データベースの検索方法の他、研究(卒業研究・卒業論文)に向けた情報活用教育などを含むようになった。特にゼミ対象の場合、担当教員からの要望により、データベース文献検索指導の他に書誌情報の読み取り方や、文献複写依頼など図書館の資料を探すレベルから、図書館間のネットワークを駆使した検索スキルの習得に変化している。この積み重ねが、2015(平成27)年度以降の科目内における図書館利用ガイダンスの基礎を形作ったとも言える。

このように、年月を経ながら、定義に含まれる事柄が順に組み込まれ現在の指導内容へと成熟してきている一方で、変化しない点もある。それは、この図書館利用ガイダンスが、2003(平成15)年度以降、図書館主導のガイダンスではなく、科目の中で実施されているという点である。

第三章 現代文化セミナーにおける図書館利用ガイダンスの実践報告

1. 「現代文化セミナー」と関連科目

「現代文化セミナー」は、現代文化学部で1年前期に開講される科目であり、図書館利用ガイダンス(2コマ)で、図書館利用法や、情報

東京純心大学の歴史と図書館利用ガイダンスの歴史 (表1)

大学の主な歴史	図書館利用ガイダンス関連の歴史
<p>[1996] 東京純心女子短期大学を改組転換、東京純心女子大学現代文化学部(英米文化学科、芸術文化学科)開学。</p> <p>[2004] 東京純心女子大学現代文化学部にくども文化学科増設。英米文化学科を現代英語学科に学科名変更。</p> <p>[2008] 現代英語学科を国際教養学科に学科名変更。</p> <p>[2010] 芸術文化学科募集停止、国際教養学科に統合。</p> <p>[2015] 東京純心女子大学から東京純心大学に名称変更(共学化)。看護学部看護学科開設。国際教養学科募集停止。</p> <p>[2017] 図書館第3閲覧室にラーニングcommonsを設置。</p> <p>[2023] くども文化学科募集停止。</p>	<p>[1996] 講義概要SYLABUSに「(付)レポート・論文作成のための参考文献―図書館から―」掲載。</p> <p>[2003] 英米文化学科・芸術文化学科1年授業でのガイダンス開始。図書館の使い方、資料の探し方案内・指導。</p> <p>[2004] 1年以外に、3・4年生向けにもガイダンス開始。</p> <p>[2009] 日本カトリック大学連盟図書館協議会総会を本学にて開催。実務研修会で利用者教育が取り上げられた。</p> <p>[2010-2012] 教職科目でのガイダンス実施。</p> <p>[2011] ゼミでのガイダンス開始。</p> <p>[2015-] ほぼ現在の形になる。現代文化学部:1・2年の3科目、看護学部:1・2年の2科目、ゼミは求めに応じて)</p>

リテラシー⁸⁾・情報収集の初歩などを学ぶ。

1年後期の「純心チュートリアル」では、図書館利用ガイダンス(3コマ)で、情報リテラシーや情報収集方法・整理術などを学ぶ。その後各テーマで情報収集しグループで発表する。

2年前期の「アカデミックライティング」では、論文執筆・発表を学生各人が行う。図書館利用ガイダンス(1コマ)で、データベースによる文献収集方法を中心に学ぶ。

このように3科目の授業で、レポート・論文作成方法や、それに伴うリテラシーについて学ぶ機会があり、何度も復習するとともに、段階ごとに深く実践的になっていく。

2. 「現代文化セミナー」の到達目標

「現代文化セミナー」の授業の到達目標をシラバスで確認した。6つの到達目標の内、次に挙げる2つが図書館利用ガイダンスに関わると考えられる。

1. 高校生から大学生への移行をスムーズに行い、自発性・自主性を涵養し、大学生としての自覚を持って行動できるようになる。
2. 「学びの態度・方法」の基礎となる「インプット・アウトプット」の方法を身につける⁹⁾。

では、その到達目標に向けて図書館利用ガイダンスの目標をどのように定めたのか、次の節で見えていく。

3. 「現代文化セミナー」における図書館利用ガイダンスの目標

図書館利用ガイダンスでは、2回の授業で、具体的に次のような目標を定めた。【】内には「図書館利用教育ガイドライン」¹⁰⁾に挙げられている5領域を記載している。

- ① 情報リテラシーの必要性を理解する。(情

報探索から発信までの過程、学修・生活の基盤的能力)【領域1、3】

- ② 大学での学びについて理解する。(主体的に学ぶ)
- ③ 大学図書館について理解する。(公共図書館・学校図書館との違い、本学図書館の利用法・強み)【領域1、2】
- ④ 情報源の種類と特徴を知る。(図書・雑誌の種類と特性、情報の信頼性をチェックするポイント、参考図書の意義・使い方)【領域2、3】
- ⑤ 大学図書館の図書を探せるようになる。(OPAC検索方法、書架や図書の並び方)【領域2、3】
- ⑥ 情報を整理して蓄積する方法を知る。(書誌カード・キーワードカードの記入方法、論文の抄録)【領域4】
- ⑦ 論文やデータベースについて理解する。(論文とは何か。CiNii Research検索方法)【領域2、3】

以上7つの目標を授業でどのように計画し実践していったかを次の節で説明する。

4. 2022年度現代文化セミナーでの図書館利用ガイダンスの概要

ここからは、2022年度の現代文化セミナーにおける図書館利用ガイダンスについて記載する。

実施日時：令和4年7月5日・12日(火) 各4限

科目担当教員：2名

対象学生：現代文化学部こども文化学科1年生
(合計16名)

場所：大学図書館。主に第3閲覧室ラーニング
コモンズ(以下LC)及び第1閲覧室。

【授業計画】(表2)

7月5日

時間配分	学修内容	学修活動・方法	指導上の留意点・備考	担当	場所
<p>学修目標</p> <p>① 情報リテラシーの必要性を理解する。(情報探索から発信までの過程、学修・生活の基盤的能力)【領域1、3】</p> <p>② 大学での学びについて理解する。(主体的に学ぶ)</p> <p>③ 大学図書館について理解する。(公共図書館・学校図書館との違い、本学図書館の利用法・強み)【領域1、2】</p> <p>④ 情報源の種類と特徴を知る。(図書・雑誌の種類と特性、情報の信頼性をチェックするポイント)【領域2、3】</p> <p>⑤ 大学図書館の図書を探せるようになる。(OPAC検索方法、書架や図書の並び方)【領域2、3】</p>					
5分	出席確認			教員	LC
20分	職員紹介。 大学図書館を知ろう	DVDを視聴し、情報リテラシーや大学図書館の役割、様々な情報源について学ぶ。	DVD『情報の達人』第1巻第2講「情報リテラシーは学習の基盤」、第4講「さまざまなメディアと情報源」、第6講「図書館のコレクション」を視聴する。	山本	LC
10分	大学での学びと情報検索の関係を知ろう 情報源ごとの特徴を知ろう 本ってなんだ？雑誌ってなんだ？	職員の解説を聞き、大学では主体的に学ぶことが求められること、様々な情報源とその特徴や信頼性について学ぶ。	根拠をもとにレポートを作成することや、メディア別の性質を把握した上で情報収集することが重要であると強調する。雑誌は、一般雑誌から学術雑誌まで色々な実物を見せて紹介する。	田中	LC
20分	図書館ツアー	図書館内を巡り、配置やルール、利用法を知る。		山本	館内
30分	図書館の図書を探してみよう。OPACの使い方	1人1冊の図書をOPACで検索し、書架から持ってくる。図書を見てみて、奥付を見ながら書誌事項を記入欄に書き出す。元の書架に返却し、ブラウジングする。	OPACの利点を伝える。OPAC検索図書はあらかじめ職員がリストアップしたものから、1人ずつ別なものがレジュメで割り当てられている。OPACの検索窓にはキーワードを単語で入力し、複数の場合はスペースで区切って検索することを強調する。探し方で躓く学生がいれば支援する。	田中	第1
5分	まとめ			教員	第1

7月12日

時間配分	学修内容	学修活動・方法	指導上の留意点・備考	担当	場所
<p>学修目標</p> <p>① 情報源の種類と特徴を知る。(図書・雑誌の種類と特性、情報の信頼性をチェックするポイント、参考図書の意義・使い方)【領域2、3】</p> <p>② 大学図書館の図書を探せるようになる。(OPAC検索方法、書架や図書の並び方)【領域2、3】</p> <p>③ 情報を整理して蓄積する方法を知る。(書誌カード・キーワードカードの記入方法、論文の抄録)【領域4】</p> <p>④ 論文やデータベースについて理解する。(論文とは何か。CiNii Research検索方法)【領域2、3】</p>					
5分	出席確認			教員	LC

20分	参考図書(レジュメではレファレンスブック。同義で使用している)の種類と使い方(引き比べ:「保育」、「愛」、「保育」の英語は?)	数人のグループで1冊の参考図書を使い、言葉調べを行い発表する(「保育」「愛」「nursing」を引き比べる)。「保育」⇔「nursing」⇔「看護」の言葉のつながりについて考える。	参考図書は索引があれば索引から調べることを指導する。参考図書の特徴として、正確性は高いが、時代と共に変化することがあるので注意するよう伝える。	田中	LC
35分	復習 ことばを広げる(キーワード出し) 本探し、書誌カードへの記入、図書の返却作業	「こども」「からだ」「こころ」「あそび」という4つのキーワード(現代文化学部の教育のキーワード)から、各自思いつく言葉を広げてシートに書き出す。その中から関心のあるワードを2,3選び、OPACで図書を検索する。図書を持ってきて開いてみる。書誌事項を記入欄に書き出す。書誌カードの記入方法を学び、記入する。	言葉を広げて書き出すやり方は、マインドマップのようでも良いし、簡条書きでも良く、自由に記入させる。何も思いつかない学生には声をかけ、対話しながら学生の関心あるキーワードを引き出すよう支援する。書誌カード記入については教員が指導する。	田中	第1
25分	文献検索(CiNii Researchで検索・書誌カード・キーワードカードへの記入)	職員の解説を聞き、論文や学術雑誌、データベースについて知る。文献検索データベースCiNii Researchで、検索例としてレジュメに挙げた論文を検索する。検索方法、情報の見方、本文へのリンク等を確認する。前段の「ことばを広げる」のシートから2つほどキーワードを選び、検索する。発見した論文の1つの書誌事項を記入欄に書き出す。論文を探して利用するまでの流れを確認する。キーワードカードの記入方法を学び、記入する。	データベースについてはOPAC同様、キーワードを単語で、複数場合はスペースで区切って検索するよう指導する。キーワードを変えることで検索結果が変わってくることを指導する。抄録について説明する。本文が読めない論文があっても文献複写依頼という方法があることを伝える。探し方で躓く学生がいれば支援する。キーワードカードについては教員が指導する。	小泉	第1
5分	まとめ			教員	第1

5. 授業前の準備

現代文化学部での1年生への授業内図書館利用ガイダンスは、2003年から始まった。近年、その扱う内容に大きな変更はないが、科目担当教員の授業計画や要望に応じて扱う度合いに強弱をつける程度の微調整を行ってきた。今回の場合次の2つである。1つ目は、図書館をブラウジングし、図書を手に取り、学生同士の交流を持たせることである。2つ目は、キーワードカードについて、教員がレクチャーし、実際に記入する時間を設けることである。

各レクチャーの担当職員を決め、職員が授業

案を作成し、教員にその授業案で良いか確認した。職員は担当箇所のレジュメを作成し、図書探しのための図書リスト作成(資料1)などの準備を行った。各職員の作成したレジュメ(資料2)をまとめ、編集した。授業の4日前に最終的な授業計画を教員にメールで送った。

6. 授業中について

各職員は担当箇所の授業を受け持つ。レクチャーや演習、質疑応答などを行う。担当外の職員はサポートにまわる。具体的には、板書をしたり、OPAC検索・データベース検索などで

躓いている学生や、図書探しの際図書を見つけれないでいる学生の支援をしたりする。

7. 授業後

授業を職員間で振り返り、文書にまとめ、科目担当教員に送った。振り返りは、担当ごとの「良かった点」「反省点」「改善策」及び「全体を通して気づいたこと・改善策等」などをまとめたものである。本稿執筆にあたり、目標達成度と評価（8節）、特徴的な取り組みや工夫（9節）、振り返って浮かび上がってきた課題を第四章にと、まとめ直して記載する。

8. 目標達成度と評価

(1) 目標達成度

今回のガイダンスで目標を達成できたと言えるのは次の項目である。「OPAC検索」、「課題の図書探し」、「各自の考えたキーワードでの図書探し」、「書誌カード記入」、「参考図書の利用」、「文献検索データベースでの検索」などである。これは、机間巡視中にレジユメの書き込みを確認した際に皆正確に書き出せていたこと、図書や論文を探し出せない学生がいなかったことからそのように判断している。

反対に、目標を達成できなかったのは、「各自の考えたキーワードでの論文検索」、「キーワードカード記入」などである。そこまで行きつけた学生もいたが、時間が足りなくなってしまい、論文の詳細情報を全て書き出せなかった学生、キーワードカードの記入が終わらなかった学生がいた。

それ以外の、「情報リテラシーの必要性」、「大学での学びについて」、「大学図書館について」、「情報源の種類と特徴を知る」などは、目標の達成度が把握できていない。全ての目標について達成度を把握できるよう計画したい。

(2) 評価

職員の振り返りに対し、科目担当教員からのフィードバックとして、学生が初めて触れるOPACでの検索方法を学んで理解し、自力で

図書に辿り着けたことについて評価を受けた。また、事前の打ち合わせをもっと密にする必要があるとの意見もあった。学生からの授業評価の必要性も認識しており、今後の課題と考えている。

9. 特徴的な取り組みや工夫

ここでは、本学が実践しているガイダンスの中で、特徴的なメニューとして「参考図書の引き比べ」を、特に工夫したものとして「レジユメの作成」を紹介する。

(1) 参考図書の引き比べ

参考図書の利用指導については、科目担当教員からの強い要望を受け、長らく実施しているものである。その理由は、有用で信頼性の高いツールとして学生が主体的に参考図書に立ち戻る道筋をつけることにある。なぜなら、学生はレポートや卒業論文・研究に取りかかる時、調べることの概要、定義、言葉の広がり・つながりなどがわからず途方に暮れることが多く、それらの課題に参考図書は非常に役立つからである。

参考図書の引き比べは、グループワーク中心に20分間を構成している。友人同士自由に着席させ、職員が学修する内容や到達目標を伝える。その後、ウォーミングアップとして、職員が『『愛』って何?』と発問すると、学生は隣席の学生同士で相談を始めるので、机間巡視しながら、いくつかの発言を拾い「それは本当ですか? 確証がありますか?」と問いながら、用意した参考図書（資料3）で調べることを促す。調べた語義をランダムにグループの代表者に音読させ学生同士で共有し合う。その際、職員は『新カトリック大事典』では「愛」の解説が10ページにも及ぶことなどそれぞれの参考図書の特徴に触れる。学生の主体性や、時間的余裕に鑑み、考えさせたり、対話させたり、派生して別の語義を調べたりすることもある。参考図書の扱いに慣れてきたところで、自分達の専門である「保育」を引かせ同様に吟味する。続けて

「ところで『保育』を表す英語にはchild careの他に何かあるでしょう？」と発問し、英和辞典で「nursing」を引かせると、学生達は「看護」と「保育」の両者が記載されていることに気づく。その理由を解き明かす1つのヒントとして、職員が百科事典の「看護」の項目から語源を披露する。すると学生は、全く別物と認識していた「保育」と「看護」に関係性を発見することになる。

参考図書の引き比べは、看護学セミナーの図書館利用ガイダンスでも行っている。この科目では科目責任者が毎時間リアクションペーパーを書かせており、その記載内容からは、参考図書の引き比べについて印象に残った学生が多くみられた。さらに、授業後も学生が自発的に参考図書を利用していることから、迷った時に立ち返る1つのツールとして認知されたことを示している。実践方法によって、時代錯誤と見られがちな参考図書が、興味深い学修ツールとして学生の印象に残る一例と言えよう。

(2) 学生が仕上げるレジュメ (資料2のレジュメを参照)

レジュメは最初から完成品を提供するのはなく、学生に書き込ませる欄を多く設け、ガイダンスを受けながら、自身で完成させていくものとした。空欄に書き込む言葉は、必ず板書も行い、書き漏らしがないよう配慮した。

また、各見出しの横に該当する「授業のめあて」の項目番号を付し、授業の到達目標に向けての現在地を明確に示すことで、「今していることの意義」を意識づけるようにした。現在地の確認は、小休止になるため学生の集中力の継続に効果的であったのと同時に、指導側にとってもメリハリをつける助けとなり、双方にとって良い影響を与えた。また、検索手順のスクリーンショットを多用することで、学生が自ら進められ、後から使えるレジュメとしても有用なものとなった。

ここまで、実践の詳細とその目標達成度や評

価について述べてきた。次章では、そこから認識された課題について記載する。

第四章 図書館利用ガイダンスの課題

ここでは、第三章で述べた実践の振り返りから、課題として浮かび上がったものを、1. 図書館員の指導スキルの課題、2. 内容面での課題に区別して整理する。

1. 図書館員の指導スキルの課題

(1) 図書館員の課題の背景

まず、司書課程において、利用者に対する図書館利用指導については、重要性が指摘され、その内容について解説されるものの、指導計画を立て、一対多のガイダンスを演習する機会はほとんど無いようである¹¹⁾。本学で司書資格を有する図書館員も、取得した年代は異なるが、一対多の利用指導について実践的に学んだ職員はいなかった。司書は、利用指導の重要性や実施内容の知識があっても、指導スキルが培われているわけではないのである。資格取得後に研修会で学んだり、他大学の実践報告を参考にしたりしながら、より良い利用指導を目指して試行錯誤している状態である。その点、教育職員免許状を併せ持つ職員は、授業計画・運営の仕方や学習指導において経験を活かしているところもある。

次に、本ガイダンスの指導内容においては、図書館員の専門性が発揮される場面は少ないと言える。ガイダンス(初年次対象)に必要なのは、司書の専門性よりも説明力やコミュニケーション能力である。例えば、2年生以上には、高度な文献検索を指導するため、図書館員の専門性が活かされる場面が増えるが、1年生の授業では詳細な文献検索指導までは行わない。以上から、指導スキルの課題は、図書館員ならではのものというより、教育担当者としての側面が中心となる。

(2) 授業進行に関わるスキル・適性

図書館員によっては、常に時間を意識することが難しい場合がある。今回の場合、ツアー時間が超過してしまったり、論文検索例の説明が長くなってしまったりした。時間の超過は、本ガイダンスのように複数の職員が交代で進行する授業では、他者の授業計画に影響を及ぼす。また、1度の授業内で多くの到達目標を設定しているため、学生がついて行っていないことがあった。

授業進行では、タイムキープの意識とそれをコントロールするための観察力、コミュニケーション力、統率力、臨機応変な対応などが同時に求められる。これらは、教育担当者全般に言えるスキルであり、図書館員の適性が反映する。この課題への対策として、今後は役割の固定化を念頭に計画していきたい。

(3) 目標達成度の把握や授業評価

「情報リテラシーの必要性」や「大学での学びについて」など、理解度が目に見えてわかりにくい目標について、達成度を把握する評価計画を立てていなかった。また、学生からのフィードバックを得ていない点も課題である。

過去には、レジュメに理解度チェックの書き込み欄を設け、机間巡視中に目視で把握したり、レジュメを一旦回収して添削したりしたことがある。オンライン授業時は、Classroomで検索課題を提出させ添削した。それらの経験も参考に考えていきたい。指導スキル向上のためには、教員や学生からのフィードバックが不可欠である。学生に対し、簡単なアンケートを実施することも有効であろう。

(4) 教員との連携

現代文化学部では、情報の整理の指導に書誌カード・キーワードカード作成をさせている。ガイダンス中に科目担当教員が記入方法について説明する。カード作成中は、職員が学生から質問を受ける可能性があることを想定し、職員も理解を深めておく必要があった。あるいは、細かなタイムスケジュールと優先順位を教員と共有していなかったため、時間調整が困難な場

面もあった。

内容や流れを攬う程度の相談から、更に踏み込んだ協働体制を構築する必要がある。個々のレクチャーや演習において学生の躓きやすいポイントを挙げ、教員と図書館員でどのような支援が効果的かを話し合い、補完し合う点を共通認識としておくといったことである。また、情報収集・整理のスキルは、反復練習で身に付くという特性にも鑑み、教員と連携し、継続的な支援をしていく必要がある。

2. 内容面での課題

(1) 学生の意欲を喚起すること

比較的多くの学生が図書館利用ガイダンスを必須の学修対象とは見なしていない。試験があるわけでもなく、図書館利用ガイダンスに関心がない様子の学生もいる。具体的な事象としては、スマートフォンを介してOPAC検索を行う時など、途中から他のサイトを閲覧しはじめる学生がいた。学生がこのガイダンスの必要性を認識するよう、内容や展開の工夫が必要である。また同時に学生の興味関心を喚起しながら授業を進める技能も求められる。

(2) 時間と内容のバランスの検討

本ガイダンスは、90分で4～5つの学修目標の達成を目指している。扱い方に強弱はあるものの、若干多すぎる印象を受ける。他大学が何を学修目標とし、どの程度の時間数をかけ、どのような計画でガイダンスを実施しているか、調査し比較検討する必要がある。また、同科目の別の回や他の科目における内容の重複も避けたい。図書館員に与えられた限られた時間を効果的な指導に充てるためにも、時間配分や内容の精査が求められる。

(3) 学修者主体の授業デザイン

ガイダンスでは「大学での学びとは」に始まり、図書館ツアーやOPAC検索、文献検索などを理解すべき内容・習得すべきスキルと位置付けてきた。しかし、学生側から考えた時、その時に学ぶ必然性があったかと言われると、必ず

しもそうとは言い切れない。

ガイドンス改善の重要な要素の一つが、「学修者主体」であると考えられる。主体的に取り組むには、学ぶ動機が不可欠であり、動機の醸成のためには、成果を見据えた学びのプロセスが必要と考える。茂出木は、学習理論や教授法を検討した上で、「実際にその知識をつかう場面を想起しにくい状況、すなわち『脱文脈化された状況』で学んだ知識は定着しない」¹²⁾という見解を述べている。図書館利用ガイドンスでも、学生が実際に文献を必要としていない状況で、文献収集の意義を説き、方法を教えても、知識の定着は難しいだろう。つまり、図書館が何を教えるべきとするかという「図書館主体」から、学生が学ぶ必要性を感じる文脈の中で、学生の動機を利用した「学修者主体」の学修へと変化させる必要があると考える。

現代文化学部への授業内での図書館利用ガイドンスは、2023年冬現在、全て終了しているため、この経験を看護学部への図書館利用ガイドンスに活かしていきたい。その際には、教員についていくだけではなく、積極的に情報を共有し、時には提案する姿勢で臨みたいと考える。

第五章 看護学部における図書館利用ガイドンスの展望

この章では、第四章で述べた課題に加えて、今後の図書館利用ガイドンス運営において念頭に置いておきたい事項を整理する。

1. 対面と非対面のメリットを活かしたガイドンスの実践

本稿をまとめるにあたり、他大学の図書館利用ガイドンスの現状を知る機会を得た。2019(令和元)年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大による急速なオンライン化を受け、図書館でも非対面のガイドンス構築などが進んだ。本学でも、自宅学修期間が図書館利用ガイ

ダンスと重なる時期には、オンライン用の授業を準備し、Google クラウドで図書館ガイドンスを実施していた。2022(令和4)年度以降、本学では全面的に対面授業に戻っており、オンライン学修の必要性に立ち戻る機会はなかった。しかし、例えば授業の一部分をオンデマンドで予習してから授業に参加する形式など、各々の利点を活用することで対面授業がより充実することも考えられる。あるいは、学修内容を補完する配信を行うことで、学び直しができるという利点もあるであろう。

本学は、伝統的に一人ひとりの学びに教職員が丁寧に向き合う指導を強みとしている。また、本学は、将来、生身の人間に接することを生業としたい学生が学んでいる。そういった特徴をもつ大学の図書館として、対面と非対面のより良い活用の模索が求められる。

2. 継続的に学修する能力を磨く図書館利用ガイドンスの構築

2022年度より高等学校の指導要領においては、「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」と名称変更された。各教科において「探究」と名の付く科目が新設されるなど、今後「探究」という視点が社会生活の中でも重視されてくることが予想される¹³⁾。「探究」が軸となるのであれば、その学修において図書館が大いに活用されることを期待する一方で、第一章で述べた図書館体験だけでなく、「探究」体験においても違いがあることを認識しておく必要がある。

また、森井によると、看護師には「継続的に学習する能力」が欠かせないとされており、この能力に関連するものとして、Evidence Based Nursingがある¹⁴⁾。このEvidence Based Nursingの実践ステップは、「①疑問の明確化、②エビデンスを探す、③情報の批判的吟味、④患者への適応可否、⑤自身の行ったケアを評価」¹⁵⁾の5つと言われている。

このことから、利用ガイドンスにおいて図

書館の可能性をどのように印象付けるかは大きな課題である。また、そこで受けたインパクトを看護師の継続的に学修する能力の陶冶に繋げていくためには学修者にとって必然な状況がなくてはならない。

3. 教職協働による図書館利用ガイダンス

情報リテラシーの力は日々の小さなトライアルアンドエラーを繰り返す中で磨かれるものであることも忘れてはならない。教本やマニュアルを与えたり、たった1度のワークショップを体験したりという単発的なイベントで身につくものではない。普段のレポート作成に図書館利用が根付くことが第一歩である。そこには、図書館からの発信や学生の主体性以外に、課題の提示方法の工夫も大いに影響してくる。この点においても教員と職員の協働の可能性が大いにある。学生、教員、職員の密なコミュニケーションが可能な本学だからこそ、実践できる図書館利用ガイダンスの模索を続けながら、次年度以降、第四章で列挙した具体的な課題を解決し、生涯にわたり主体的に学修する姿勢を育む支援を続けていきたい。

おわりに

現代文化学部における図書館利用ガイダンスが令和5年度で最終回を迎え、その記録を残し、次に繋げることを目的として本稿を執筆した。執筆に際しては、歴代の図書館員が試行錯誤した様々な教材や授業案、振り返り資料を見返す機会を得た。一方で、他大学の実践報告や雑誌記事からは、多くの図書館が大学の事情や時代のニーズに即した図書館サービスの提供とその利用指導を行っていることを改めて知ることとなった。次に活かすための振り返り方や図書館員自身の授業に引き込む力など課題を挙げればきりが無い。しかし、令和5年前期に指導した現代文化学部の学生達が、授業時間以外に集まり、有益な資料を学内外から探し出して

は、グループ発表に向けてパワーポイント作成に取り組んでいる姿を見ると、指導が生きていることも実感するのである。図書館員にとっての小さな成功体験である。

先般刊行された『図書館雑誌』2023年11月号¹⁶⁾は「表現する図書館員―書くことのすすめ」という特集であった。その中では、図書館員が豊富な情報や経験を蓄積しているにも関わらず、組織的な問題から発信するに至っていない現状も紹介されていた。他館との、成功事例や抱える課題の共有を進めながら、指導スキル向上のための実践に努めてきたい。

参考文献

- ・石川敬史。「大学図書館の新入生オリエンテーション～情報リテラシー教育への位置づけとして～」、新聞ダイジェスト社、『大学と学生』、29号、2006年、pp.33-41
- ・今まど子・小山憲司編著、『図書館情報学基礎資料』第4版、樹村房、2022年
- ・成田康子、『高校図書館 生徒がつくる、司書がはぐくむ』、みすず書房、2013年
- ・日本図書館協会図書館雑誌編集委員会、『図書館雑誌』、第117巻第11号、2023年、pp.682-695
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会、『図書館利用教育ガイドライン合冊版』、日本図書館協会、2001年
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会、『図書館利用教育ガイドライン：大学図書館版』、日本図書館協会、1998年、pp.16-18、<https://www.jla.or.jp/portals/0/html/cue/gl-u.pdf> (最終閲覧2023年12月22日)
- ・茂出木理子。「学習支援としての情報リテラシー教育：これまでとこれから」、学術文献普及会、『大学図書館研究』、100巻、2014年、pp.53-64
- ・森井理恵。「看護基礎教育機関の図書館における利用者教育：効果的な情報リテラシー教

- 育の要件からの検討」、日本図書館研究会、『図書館界』、69巻4号、2017年、pp.235-250
- ・文部科学省.『「司書教諭」と「学校司書」及び「司書」に関する制度上の比較』、https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/sisyo/1360933.htm (最終閲覧2023年12月21日)
- ・山中貴博・袴田綾斗.「高等学校『総合的な探究の時間』における探究型読書の授業実践 —教授人間学理論を用いた『深い探究』の分析—」、高知大学教育学部.『高知大学教育学部研究報告』、82号、2022年、pp.97-108

-
- 1) 今まど子・小山憲司編著.『図書館情報学基礎資料』第4版、樹村房、2022年、p.129
- 2) 日本図書館協会図書館利用教育委員会.『図書館利用教育ガイドライン合冊版』、日本図書館協会、2001年、p.3
- 3) 上掲書p.37
- 4) 石川敬史.「大学図書館の新生オリエンテーション～情報リテラシー教育への位置づけとして～」、新聞ダイジェスト社.『大学と学生』、29号、2006年、pp.33-41
- 石川は、当該論文の中でこの5つの領域各々について、『図書館利用教育ガイドライン：大学図書館版』の付録「図書館利用教育ガイドライン—総合版—」からの引用として次のとおり紹介している。

・領域1：印象づけ

各自の情報ニーズを充たす社会的機関として図書館の存在を印象づけ、必要が生じた場合に利用しようという意識を持つようにする。

・領域2：サービス案内

各自の利用する図書館の施設・設備、サービスおよび専門的職員による支援の存在を紹介し、その図書館を容易に

利用できるようにする。

・領域3：情報探索法指導

情報の特性を理解すると同時に、各種情報源の探し方と使い方を知り、主体的な情報探索ができるようにする。

・領域4：情報整理法指導

メディアの特性に応じた情報の抽出、加工、整理、および保存ができるようにする。

・領域5：情報表現法指導

情報表現に用いる各種メディアの特性と使用法を知り、目的に合った情報の生産と伝達ができるようにする。守るべき情報倫理を伝える。

- 5) 学校図書館法第5条第1項、附則、附則第2項(司書教諭の設置の特例)、及び第6条第1項
- 6) 文部科学省.『「司書教諭」と「学校司書」及び「司書」に関する制度上の比較』、https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/sisyo/1360933.htm (最終閲覧2023年12月21日)
- 7) 成田康子.『高校図書館 生徒がつくる、司書がはぐくむ』、みすず書房、2013年、pp.243-244
- 8) 情報リテラシーの定義として、前掲書(注1)の解説を引用しておく。「さまざまな情報源から必要な情報にアクセスし、それらを評価し、活用するための基礎的な知識や技能のこと。コンピュータなどの情報機器の操作にとどまらず、それらを活用した情報の収集や加工、発信のほか、情報技術や情報社会についての理解など、広く情報に係る知識や技能が必要とされる。」p.107
- 9) 引用部分を含む「現代文化セミナー」の到達目標6つを挙げる。

1. 高校生から大学生への移行をスムーズに行い、自発性・自主性を涵養し、大学生としての自覚を持って行

動できるようになる。

2. 「学びの態度・方法」の基礎となる「インプット・アウトプット」の方法を身につける。
 3. 東京純心大学の設立の背景、建学の精神などを理解し、自分の居場所を見つけ学園生活を軌道に乗せる。
 4. グループワークを通じて相互の理解を深め、共働の楽しさと意義を知る。
 5. 将来について早い段階から考え、自分のキャリアについて計画的に準備を進める。
 6. 朗読劇の群読やグレゴリオ聖歌斉唱をつうじて、他者との「共生態」を獲得する。
- 10) 前掲書（注2）p.40
- 11) 2021年から2022年という比較的最近に司書課程を学んだ職員に尋ねてみても、実践的には学んでいないとのことだった。その時の司書課程の該当テキストには、「図書館利用教育」の章があり、大学図書館の利用指導についてもその形式、内容について記載がある。通信教育のテキストのため一般に入手は困難であるかもしれないが、参考として記載しておく。
毛利和弘.『情報サービス論』改訂版、近畿大学通信教育部、2019年、pp.78-80
- 12) 茂出木理子.「学習支援としての情報リテラシー教育：これまでとこれから」、学術文献普及会.『大学図書館研究』、100巻、2014年、pp.53-64
- 13) 山中貴博・袴田綾斗.「高等学校『総合的な探究の時間』における探究型読書の授業実践―教授人間学理論を用いた『深い探究』の分析―」、高知大学教育学部.『高知大学教育学部研究報告』、82号、2022年、pp.97-108
- 14) 森井理恵.「看護基礎教育機関の図書館における利用者教育：効果的な情報リテラシー教育の要件からの検討」、日本図書館研究会.『図書館界』、69巻4号、2017年、pp.235-250
- 15) 上掲書
- 16) 日本図書館協会図書館雑誌編集委員会.「特集/表現する図書館員―書くことのすすめ」、日本図書館協会.『図書館雑誌』、第117巻第11号、2023年、pp.682-695

資料1 図書探しのための図書リスト

※実際はこの1冊1冊のタイトル及び副タイトルが、第12回(5日)のレジユメの【6】【演習1】「あなたに探してほしい本」の下に埋め込まれるよう設定している。各自異なるタイトル・副タイトルから、OPACで検索することとなる。分類記号・著者記号を載せた本リストは、図書館員用に作成している。

	タイトル	副タイトル	分類記号	著者記号
1	『暮らしの英語を書いてみよう』	Writing everyday English	835	セ
2	『子どもたちの言語獲得』		801.04	コ
3	『あした選挙へ行くまえに』		314	イ
4	『薔薇の名前』		973	エ
5	『ここは今から倫理です。1』	From now on we being ethics	150	ア
6	『ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー』	the real British secondary school days	376	ブ
7	『ドードーを知っていますか』		480.4	メ
8	『子どもにどうしてあげればいい?』	「こころの病気を抱える親」のハンドブック	493.7	ソ
9	『ADHDの子どもたち』		493.9	コ
10	『ビートルズ語辞典』	ビートルズにまつわる言葉をイラストと豆知識でヤァ!ヤァ!ヤァ!と読み解く	764.7	フ
11	『スウェーデン保育から幼児教育へ』	就学前学校の実践と新しい保育制度	376.1	シ
12	『修道院のお菓子と手仕事』		198.25	ヒ
13	『からだといのちに出会うブックガイド』		028	カ
14	『0・1・2歳児の連絡帳の書き方』	低年齢児保育が学べるワイド版 具体的なテーマ(育児の悩みや喜び)→書き方のポイント→発育・発達メモでよくわかる!	376.14	ゼ
15	『東京名教会さんぽ』	心が洗われる東京の美しい聖堂	523	ス
16	『センダックの世界』		o726.5	セ
17	『スティーブ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン』	The legendary speeches and presentations of Steve Jobs	837.7	ジョ
18	『なぜ、伊右衛門は売れたのか。』		588	ミ
19	『書きにくい手紙の実用文例集』		816.6	カ
20	『世界を変えた100人の女の子の物語』	グッドナイトストーリーフォーレベルガールズ	280.4	ファ
21	『星座の神話と伝説がわかる本』		443	セ

資料2 両日のレジュメ

※7月5日の実際のレジュメでは、書影を多数掲載していたが、本稿掲載においては著作権の語諾を得られなかったため、書影を掲載していない。また、予定を変更したため【7】以降は使用していない。7月12日のレジュメでは、論文検索の検索例に、学生にとって研究テーマがわかりやすく興味を持ちそうな論文を選んだ。詳しくはレジュメを参照されたい。

(1) 7月5日のレジュメ

令和4年7月5日 (水) 4時
図書・研究支援課

開催場所

開催日時

図書館利用ガイダンス

授業のめあて (主に女：3限目、水：4限目)

- ☆1 大学図書館を知ろう (公共図書館との違いは？大学図書館は何が出来る？)
- ☆2 大学での学びと情報検索の関係を知らう (何を探そう？→もしまして？→知りたらい！→伝えたい！)
- ☆3 情報源ごとの特徴を知らう (早くて簡単で無料？…ネット上の情報の強と弱とは？)
- ☆4 本ってなんだ？触ってなんだ？
- ☆5 東京純心大学図書館の強みを知らう (図書館をウロウロ)
- ☆6 図書館の図書を探してみよう (情報源 OPAC の使い方を体験)
- ☆7 情報を探して書籍する方法を知らう (B6 カードの使い方)

【1】大学図書館とは？DVD鑑賞 (☆1)

【2】本での学びと情報 (☆2・☆3)

東京純心大学では「**本**」は「**情報源**」(小中高・中学校) のような「**伝えられる書影**」から「**発信**」を始める高等教育を経て「**自ら発信**」ことを求める人たちが「**自ら発信**」の場である「**所**」です。「**所**」は「**大学**」に「**在学**」してだけでなく「**学生**」に呼びかけがわります。そして、その学びは、**成果**として様々な形で世の中に発信され、それによって私たちの未来に役立てられていくことが求められています。

<自ら発信：小さな研究活動のはじまり>

- ① 何がどう？…五感を働かせて
- ② もしかして？…これまでの経験や学びを活用して自分なりの答えを探してみる
- ③ 知りたない！…調べて考えて調べて調べて…
- ④ 伝えたい！…レポート作成、プレゼンテーション、論文執筆、講演
- ⑤ 触りたい！>

ここで「**情報源**」が活用します。そして、**気**を付けてほしいこともあります。

図書館には様々な資料があります。

<図書館にある資料>

- ・図書 (紙の本) 文庫、新書、洋書、辞典、雑誌、白書
- ・図書 単行本、文庫、新書
- ・新聞 朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、カトリック新聞、The Japan Times
- ・雑誌 (紙の本) 学術雑誌、専門雑誌 (医業、学芸雑誌、論文集)
- ・データベース：学術データベースや学術雑誌データベースや学術論文データベースなど

図書館員は論文等が載った「**学術雑誌**」など

<情報の強さと信頼性の関係>

インターネットの情報 ●速い ●遅い ●速い

信頼性 ●高い ●低い ●高い ●低い

- ！ 正確性は高いといえるが、著者、出版社、出版年を要確認。
- ！ 正確性は高いといえるが、時代とともに変化することもある。

レファレンス資料 ●速い ●遅い

★インターネットの種類も用途も、種類 (出典の属性)、最新情報かよいかなどの強弱をよほど注意する必要があります。例えば、公刊論文や学術雑誌は出ている分野や学術性も高く信頼性も高く活用した方が良いでしょう。

★ネットやウェブページは、誰でもいつでも見られるように公開されています。そのため、レポート作成の参考にすることは、レポート作成の参考にすることはできません。

【3】本ってなんだ？触ってなんだ？ (☆4)

本とは…明確な定義はない？48ページ以上の

単行本

書影

文庫

書影

新書

書影

コミック

書影

専門雑誌 ●速い ●遅い ●速い ●遅い

一般雑誌 ●速い ●遅い ●速い ●遅い

紀要 ●速い ●遅い ●速い ●遅い

学術雑誌 ●速い ●遅い ●速い ●遅い

【4】東京純心大学図書館の強みを3つ探そう (☆5)

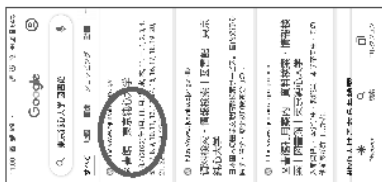
- ①
- ②
- ③

【5】図書（本）探し（★6）
 東京純心大学図書館には12万冊の図書資料があります。その中から自分に必要な図書（本や雑誌）を探すのに便利なツールが「

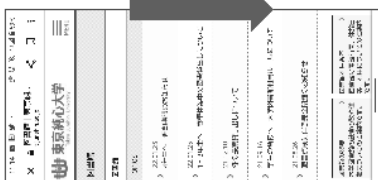
＜パソコン画面で検索＞
 正面のスクリーンにご注目！

＜自分で操作みる＞
 スマートフォンやタブレットをご準備し、次の手順で④まで進んでください。

① 検索バーに「東京純心大学 図書館」(必ずスペースをあけて1) と入力(検索)をタップ
 検索結果が1のように表示されます。



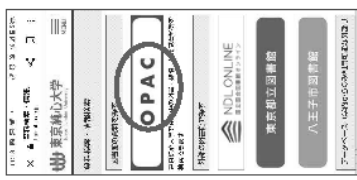
② 開いた画面を下にスクロール



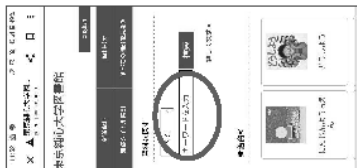
③ 資料検索・情報検索をタップ



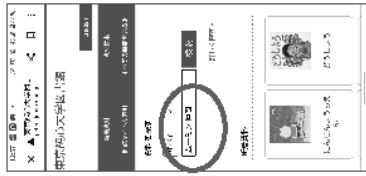
④ OPACをタップ



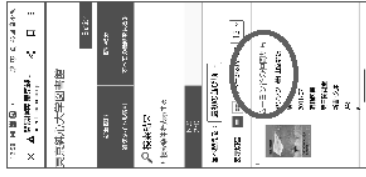
ここまで完了したら説明を聞きましょう



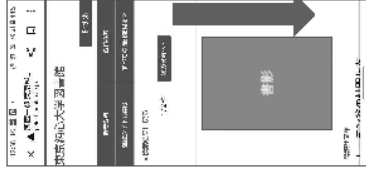
⑤検索バーに「ホーム」ボタンを追加
と入力して検索をタップ

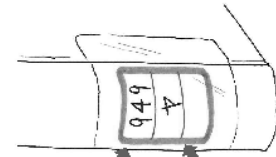


⑥トップに出してきた資料情報の
タイトル部分をタップ



⑦詳しい情報が開きます。
下の方へスクロールすると...





本の背表紙の下の方に貼ってあるシールに記述されています。本の住所①です。図書館の本は住所①によって大きく10の順に分けられ、さらに内容によって細分化されています。

本の背表紙の下の方に貼ってあるシールに記述されています。住所②の中は著者の漢文字で書かれますが、ア～順に並んでいます。

図書館は大きく分けて3か所に分かれています。その3か所のどこにあるかを示しています。

【6】 【演習1】
①次に挙げる本を「東京純心大学 図書館」の「OPAC」で検索し、図書館での本探しに必要な事項を以下の表に書き出してください。
ヒント：第一図書館から探してください

☆あなたに親しい本☆
『ステイプ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン』
The legendary speeches and presentations of Steve Jobs

著者名 (編者などの場合も)	
分類記号 (3桁または4桁数あり)	
著者記号 (カタカナ)	
保管場所コード (数字ではなく日本語を書き出して下さい)	

②配入出来たら、書架からその本を持ってこよう！

【演習2】
探せた方は、今あなたの手元にある本をよく観察してください。特に裏表紙のそばにある「奥付（おくづけ）」は重要なページです。奥付を見ながら次のことを書き出しましょう。

出版年 (何年に出版された本でしょうか)	
出版社 (出版している会社名は?)	
ISBN (長い数字の番号)	

【演習3】 隣の方と本を交換して、その本を書架に戻してみよう。探せたら戻せるはず！

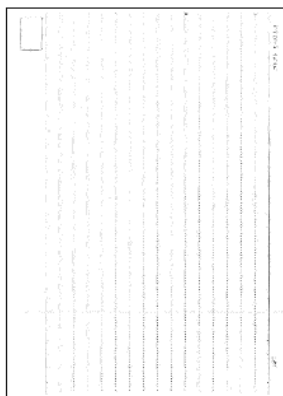


【7】調べた図書などの情報を蓄積する（★7）

レポート課題のために調べた図書資料や文献は、整理して蓄積しておかないと散逸してしまいます。あとから探おうと思っても、二度と探せないなどということもあるのです。ここでは、その情報を自己管理する方法を学びましょう。

<B6カード>

記入方法を自分なりにメモしましょう。どこに何を書く？それはどうして？



【演習4】今のあなたにぴったりの本を見つけよう

著者名 (編者などの場合も)	
分類記号 (3桁または小数点あり)	
著者記号 (カタカナ)	
保管場所コード (数字ではなく日本語を書き出してください)	
出版年 (前年に出版された本でしょうか)	
出版社 (出版している会社名は?)	
ISBN (紙い数字の羅列)	

(2) 7月12日のレジュメ

令和4年7月12日 (火) 4限
図書・研究支援課

主催者：_____ 氏名 _____

現代文化センター 第13回

図書館利用ガイダンス

授業のめあて

- ★1 レファレンスブックって何？
- ★2 情報を整理して書籍する方法を知らう Part.1 (7/5 ハンドアウト [7] も参照)
- ★3 論文ってなんだ？データベースってなんだ？
- ★4 論文を探してみよう (Cinii Research の使い方を体験)
- ★5 情報を整理して書籍する方法を知らう Part.2 (キーワードカードの使い方)

【1】レファレンスブックって何？(★1)

<情報の速度と信頼性の関係>

インターネットの情報 スピード 信頼性

- 低い
- 高い
- 速い
- 遅い
- 高い
- 低い
- 速い
- 遅い

レファレンス資料 ●速い ●高い

すく読めるが執筆者、掲載など保証がないものも多い。信頼はあるが労働的なことも多い。信頼との比較も重要。検索は必ずしもあるべきである。検索は必ずしもあるべきである。検索は必ずしもあるべきである。検索は必ずしもあるべきである。

①レファレンスとは？
reference

②いろいろ引き比べてみよう

保育
愛
保育は英語で
保育=nursing=看護 ??? ということだ？

【2】情報を整理して書籍する方法を知らう Part.1 書籍カード (★2)

【前回の復習】今のあなたにぴったりの本を見つけよう

① ことばを広げる

図書のカード情報からカードもキーワード検索が◎EPをしよう！

②その本を書架から持って来よう

著者名 (編者などの場合も)	
分類記号 (3桁または小数点あり)	
著者記号 (カタカナ)	
保管棚行コード (数字ではなく日本語を書き出してください)	
出版年 (周年に出版された本でしようか)	
出版社 (出版している会社名は?)	
ISBN (表紙・表紙の裏側)	

③入手した情報を整理しよう

レポート課題のために採った図書資料や文献は、整理して整理しておかないと散逸してしまいます。あとから使おうと思っても、二度と探せないなどということもあるのです。ここでは、その情報を自己管理する方法を学びましょう。

<B6カード>

記入方法を自分なりにオモいましょう。どこに何を書く?それはどうして?

【3】論文ってなんだ?データベースってなんだ? (★3)

論文とは、研究成果を論理的にまとめて発表する文章のこと。オリジナルティがあるもの。学術的な雑誌に掲載されています。

図書館にある資料 (情報源) の1つ、「学術雑誌」。論文は学術雑誌に掲載されています。

- ・学術会議とは、学会が刊行する学術雑誌。著者 (著者という) を経て掲載されるシステムがあり、質が高い。
- ・学術紀要とは、大学が刊行する学術雑誌。同じく査読あり。

☆ これらを取り上げることができる論文検索データベース
 研究論文や雑誌記事などの情報を集めたもので、データベース検索に似ています。
 日本版の論文データベース: CJKI Research
 医療情報系の論文を探す: 医中誌 Web・メディアカルオンラインなど

☆ 図書館 図書集 ☆

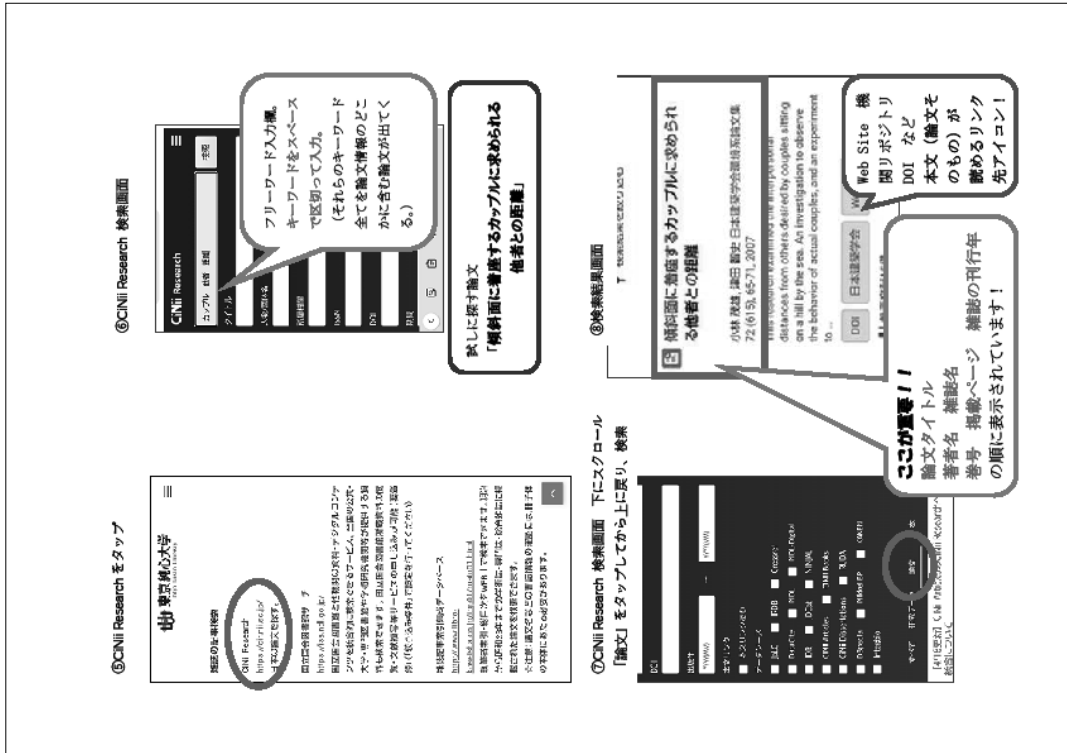
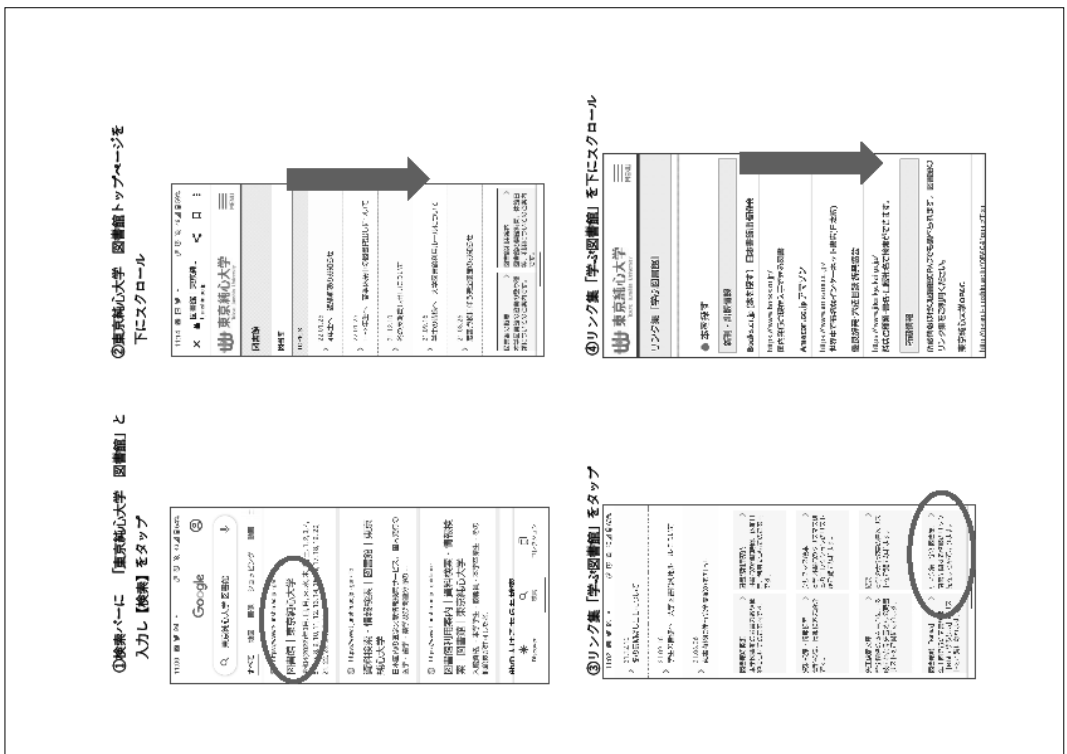
- 資料…図書・雑誌・DVD など色々
- データベース…特定のデータを集めて整理した情報のかたまり
- 要次刊行物…大まかに言うって雑誌
- 文庫…参考になる文書・書物のこと
- 論文…研究成果をまとめた文書
- 学術雑誌…論文や研究報告を掲載している学術的な雑誌
- 学協会誌…○○学会、○○協会が刊行する学術的な雑誌
- 要次刊行物…大学が刊行している学術的な雑誌
- 掲載誌…その論文や記事が掲載されている雑誌
- 巻号…雑誌のNo. や Vol. (22巻 6号とか)
- 刊行年…その図書や雑誌が刊行された年
- ISSN…その雑誌 (要次刊行物ともいう) を他と区別するための国際的なコード



東京純心大学の記要ですー

<自分で操作してみよう>

スマートフォンやタブレットをご準備し、次の手順で⑥まで進んでください。



④論文の詳細画面

論文タイトル

Web Site 情報
 開リポジトリ DOI など
 本文(論文そのもの)が読めるリンク先アイコン!

重要情報 ISSN はここに!
 その雑誌(逐次刊行物ともいう)を他と区別するための固着的なコード。

⑤詳細画面 下にスクロール 重要な情報はここに!

抄録とは、その論文の要旨を簡潔に説明した文章のこと。

さっさも出てきてねど、ここが重要!!

本文(論文そのもの)が読めるリンク先アイコン!

著者名、所属

この論文をさがす

⑥さらさら下にスクロール

全文リンク先

リンク先ページ。PDF ファイルをタップすれば本文が表示されます。

【4】今のあなたにぴったりの論文を見つけよう(★4)
 広げた言葉の中から、あなたが今一番関心をもっていることを選び、そのキーワードをもとに論文を探してみよう。

あなたのキーワード(言葉をひろげる)シートから2つほど選んでここに書き、検索してみる。) **あなたをヒットした時は、キーワードそのものや、スペースを離れ、そして、英字や階層ステップを離れてみよう。**

見つけた論文の情報を書こう
 検索結果画面ではタイトルの下、論文詳細画面では「収録刊行物」のところに表示されています。

①論文タイトル: ②著者名:
 ③雑誌名: ④巻号:
 ⑤掲載ページ: ⑥雑誌の刊行年

⑦ISSN (無いものもある):
 (論文詳細画面下の方)

【5】発見した論文を利用する
 発見した論文を利用する流れを大まかに紹介しておきます。

論文発見!

「抄録」を読む

求めている内容

Yes 全部読める

No 図書館で検索

Yes 借りる・コピー

No 全文全文依頼
 図書館カウンターへ

Yes 出力や保存

No 調べなおし...

【6】調べた図書などの情報を登録する Part.2 キーワードカード(★5)

資料3 参考図書リスト

	タイトル	著者等	出版社	版	出版年
1	教育思想事典	教育思想史学会編	勁草書房	増補改訂版	2017年
2	広辞苑	新村出編	岩波書店	第7版	2018年
3	ジーニアス英和辞典	南出康世編集主幹 中邑光男 [ほか] 編集委員	大修館書店	第5版、机上版	2015年
4	新カトリック大事典 第1巻	上智学院新カトリック大事典編纂委員会編	研究社	初版	1996年
5	新明解国語辞典	山田忠雄 [ほか] 編	三省堂	第7版	2012年
6	世界大百科事典6	下中直人編集発行	平凡社	改訂新版	2007年